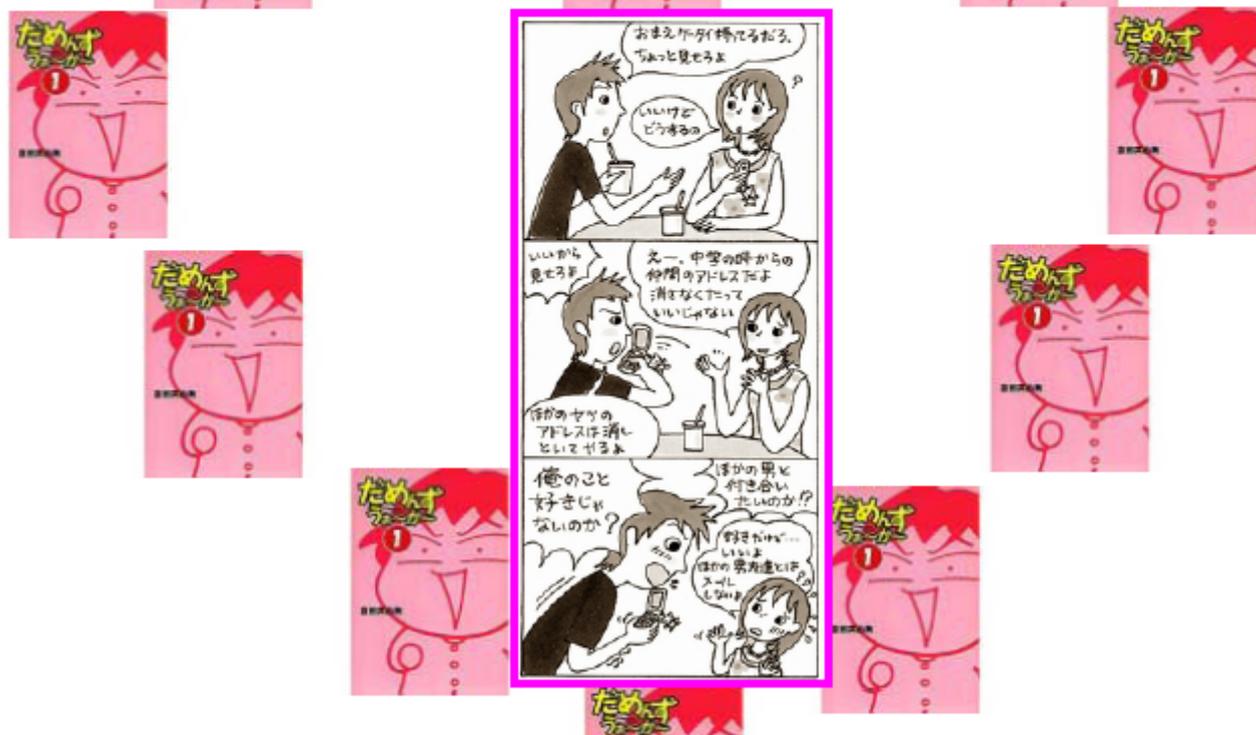


# NO! デートDV・ダメメンズ



DV（ドメスティック・バイオレンス）とは、夫婦間におこる暴力だと考えていませんか。しかし、DVは夫婦間だけの問題ではありません。未婚のカップル間でも、親密な関係になると大人のDVと同様のことが起きています。そのことを「デートDV」と呼びます。

その要因のひとつは、誤った「男らしさ」、「女らしさ」学んでしまい、男女の関係が互いに人格を尊重しあわず、「力と支配の関係」になっていることが根底になって起こるといわれています。

## 1 デートDVとは何か

DV (Domestic Violence) とはドメスティック・バイオレンスと言われ、一般に夫や恋人などからの親密な関係にあるパートナーに対して行う暴力や暴力的、高圧的な態度のことを言う。

2001年 配偶者からの暴力防止及び被害者の保護に関する法律

夫婦げんか程度の扱いから、犯罪であることが明確化

東京都の調査では3人に1人

政府の調査では20人に1人が身の危険を感じる暴力

DVは大人だけの問題ではなく、デート中の若者の間でも起こる

デートDV (Dating Violence)

大人のDVとは異なり、経済的な結びつきもなく、パートナーの家族との関係もなく、法的な結びつきもない

結婚以前のデートDVは大人のDVにもつながりうるもの

葛藤と攻撃という共通性

子ども時代や思春期という時間的経過の中で捉えることが重要

## 2 デートDVはなぜ起きるのか(原因)

両親から影響

a. DVを目撃した子どもや虐待を受けた子ども

感情、行動、認知、発達上の問題

鬱(うつ)病、分離不安、PTSD (Post Traumatic Stress Disorder)

子どもは思春期に仲間に対して暴力的になる傾向

女子はデートDVに影響する

研究

- ・DVを目撃した子どもが大学生になって身体的加害者となる可能性や性的な加害者となる可能性が予測
- ・子どものころ虐待を受けた男子学生がデートDVの加害者となる関連性は見られなかった
- ・子どもの頃、性的虐待を受けた女子学生はデート相手から肉体的・精神的攻撃の被害者となる可能性がある

b. 両親の離婚

・両親の離婚を経験した学生はしていない学生に比べて、デート相手に言葉の攻撃や暴力をふるう危険性が高かったという研究が2例あった

・兄弟姉妹間での暴力が大学生のデートDVにも影響を与えているとのデータがある

家庭環境での出来事が、子どもが大学生になってからの暴力的態度や行動を行う危険性と被害者となる可能性がある

世代間連鎖：親から子どもへまたその子どもへという世代間連鎖

a. アタッチメント理論

アタッチメント「愛着」と訳すことが多い

ある特定の対象との愛情の絆

Bowlbyの心理学的研究

「恐れや不安な状況において、自分が誰かから一貫して保護してもらえるとということに対する信頼感こそがアタッチメントの本質的要件であり、それが人間の健全な心身発達を支える核になるのだ。」

つは愛情行動、二つは分離不安、3つは愛情喪失の概念を用いて体系的に示した。

乳児の行動は親を乳児に近づけさせる行動と、子どもが親に近づいていく行動があり、それらの行動は両者とも親との密接な関わりを可能とする行動となっている。最初は意識的には行動していないが、発達するにしたがい、養育者とそれ以外のひとを区別するようになり、養育者への接近を強めていく。

不安定なアタッチメントと大学生のデートDVとの関係

不安定なアタッチメント、怒りの気質、パートナーへのコントロールを試みる

## b. ストックホルム・シンドローム

家庭内ストックホルムシンドローム(DSS)

好きと嫌いと勘違いする現象。特に女性に発生しやすく、実父と同じ欠点を持った男性に魅力を感じ、恋人や夫にしてしまう。

人質にされると、人は自分の命を握っている人(犯人)を嫌いになるよりも好きになってしまう現象

子どもは親が嫌いでも生き残るために必死で好きになるようとする

女性に発生しやすい現象で、父親と同じ悪いところを持っているため男に魅力を感じてしまう現象。

実父から愛されなくてさみしい思いをしてきた女性ほど、実父と同様に自分を愛さない男性をみると好きと勘違いして、愛されようと努力する。当然のごとく、失敗を繰り返す。

(e.x.ダメンズウオーカー)

家庭内ストックホルム・シンドローム(DSS)の特徴

子供は家庭しか居場所がないので、親に逆らうことができない。そういう意味では、子供が人質で親が犯人に相当する。子供は親に自分の命を握られている存在だからである。そのため子供はたとえ親が嫌いでも、生き残るために必死で好きになるようとする。DSSの怖いのは、大人になってから恋をするときに、自分の気持ちにウソをつかれてしまうことである。つまり、嫌いな人を見ると、好きな人と勘違いして恋人にしてしまう。特に女性に発生しやすい現象で、父親と同じ悪いところをもっているため男に魅力を感じてしまうという恐ろしい現象である。実父から愛されなくてさみしい思いをしてきた女性ほど、実父と同様に自分を愛さない男性を見ると、好きと勘違いして寄っていつてしまうのである。あるいは、実父と同じような弱さ(アルコールやギャンブルに走ってしまう弱さなど)を持っている男性を見ると、好きと勘違いして近づく。そして、その男性から愛されようと努力する。当然、失敗する。

しかも困ったことに、自分を無条件に愛してくれる男性から愛されてもありがたみを感じない。むしろ、自分を愛さない人から愛されてこそ意義も意味も喜びもあると思いつ込んでいる。そのため、自分を愛せない男性を見ると必死になって愛されようとする。それが恋愛だと思っている。

実父と似たため男が好ましく見え、その人の世話をしあげたくなったり、無性にその人から愛されたくなったりするので、第三者が制止しても聞く耳をもたない。本人は良かれと思っているから。実際、当人はそういうため男でないと、付き合う気になれない。それがDSSという現象である。きわめて無自覚な現象なので、気が付きにくいのが特徴。自分の過去の恋愛を分析するしか、発見する手立てがない。

もともと嫌いなのに「好きだ」と自分に言い聞かせるのがDSSなので、・巧妙な言い訳を必要とする。人間にとって、好きと嫌いの区別は最も重要なことなので、強烈に言い訳を自分にしないとDSSは発生しない。知的レベルの高い女性ほど、DSSが発生しやすいのはそのためである。自分自身をだましてしまうほど巧妙な言い訳をたくさん用意できないと、DSSが成り立たないからである。そうやって、自分自身をだましたつげが、自分の恋愛の時に回ってくるのである。

しかし、本人は好きだと思いつ込んでいるので、DSSが発生していることを指摘しても、認めることはまれである。逆にヒステリックに否定しようとする。なぜなら、好きと嫌いが間違っていたら今後何

を信じて生きていいかわからなくなるからである。また、過去の恋愛の全てが否定されてしまうからである。でも、過去の間違った恋愛を否定されることを怖がっていると、100%間違いなく悪い結婚をしてしまう。そして、何十年かたって、自分の本当の気持ちに気がついた時から「夫のパンツをはしてつまんで洗濯する奥さん」になるのである。たとえ自分の本当に気持ちに佩がつかなくても、結婚生活は地獄になる。ゴキブリとセックスをし、ゴキブリの子を生んでしまう人生だから。自分の本当の気持ちに気がつかないと、一生が台無しになる。

#### 歴史的なストックホルム症候群

スウェーデン、ストックホルム発「銀行強盗事件」

1973年、ストックホルムの銀行を強盗が襲い、犯人は数人の人質をとって立てこもった。警官隊と何度も衝突をくり返し、人質が解放されたのは、事件発生から1週間後。しかし、人質を解放した芦、事件関係者は不思議なことに気づく。当然、犯人を憎むはずの人質が、口々に犯人をかばうような証言をするのだ。それだけではなく、「感謝されるはずの」警察を、侮辱するようなことさえ口にする。

そのうえ、事件が解決した後、人質の1人であった女性が、なんと、犯人グループの一人と結婚してしまう。これが、最初に有名になった「ストックホルム症候群」で、この症候群は、この事件から名付けられた。

#### アメリカ、カリフォルニア発「パトリシア・ハースト事件」

1974年、カリフォルニア州バークレーから、ひとりの女性が誘拐された。彼女は、サンフランシスコ・エグザミナー誌のオーナーである大富豪、ハースト氏の長女だった。彼女の名前は、パトリシア・ハースト。大学生だった彼女は、ボーイフレンドと住むアパートから、拉致されたのだった。彼女を拉致したのは、「人民解放」を目的とする政治的グループ「SLA」だった。最初は、ただの人質として監禁されていた彼女だが、少しずつSLAのメンバーと交流するようになる。そして、ついには洗脳されて、SLAのメンバーとなり、銀行強盗を犯してしまうのだ。

監禁中にすっかり洗脳されて、SLAになってしまった彼女はFBIに逮捕され、その後、刑期を終了する。彼女に犯罪の責任はあるのか、など、裁判をめぐるいろいろな心理学説が台頭。パトリシア・ハーストさんは、ストックホルム症候群でもっとも有名になった女性でもあり、彼女の体験を描いた映画や本はベストセラーとなった。

#### 日本発「新潟女性長期監禁事件」

1990年11月、当時小学校9歳の少女A子ちゃんが新潟県内で突然行方不明に。警察は公開捜査にも踏み切ったが、手がかりはなく、無残にも10年という歳月が過ぎていった。2000年1月28日、19歳になっていたA子さんが保護される。最初は犯人からかなりの暴行を受けていたが、最後の方は、家の2階でならば自由に行動することができたという。ただ、彼女が監禁されていたのは、トイレも風呂もないという、とても過酷な環境だった。なぜ彼女は逃げなかったのか？と彼女に問うことはできない。それこそが「ストックホルム症候群」だからだ。簡単に言うと、彼女は長い監禁生活と、予想もできない犯人の暴力行為のなかで「自分で行動する」という意思を奪われ、そしてその異常な生活は、幼い彼女のなかで「日常」と化してしまった。それが彼女の、サバイバル能力だったのだ。

ただ、彼女はストックホルム症候群の弊害にも負けず、気丈に生き続け、そして自由になることが出来た。この事件では、特に警察の行き届かなかった捜査も問題とされている。

### 3 デートDVの特徴

DVは実はおとなだけの問題ではありません。若者たちの間ですでに広くおきています。それを「デートDV」と言います。おとなのDVもデートDVもまったく変わりません。婚姻関係があるかないかの違いだけです。暴力をふるう理由も要因も同じです。権力と支配です。被害者がいやと言えない、愛しているから、愛されているからと勘違いしている、逃げ出せない、逃げようとするとも暴力が激しくなる、セックスを無理強いする点も同じです。デートDVだとまわりの人々が、「結婚しているわけじゃないんだから」、「女の子のほうがさっさと離れればすむじゃないか」と考えがちですから、女の子たちはかえって孤立してサポートが得にくい状況になります。

デートDVはセックスをすることで始まったり、本格化します。ですからデート中の子どもたちのけんか、いざこざ、と軽くみても危険です。ストーカー行為や、激しい暴力行為につながる危険性があります。避妊しないセックスで望まぬ妊娠をし、その結果女の子は墮胎で身も心も傷つきます。おとなの加害者男性を変えるのはたいへんです。もっと早いうちにDVの芽を摘み取る必要があります。気がついていない子どもたちに、デートDVとは何か、DVは犯罪・人権侵害であり、関係を破綻させるだけであること、相手を深く傷つける行為であること、暴力をふるう側も苦しむことを伝えたいと思います。そのためには若者たちが親密な関係をもち始めるころか、その前に、中学、高校、あるいは大学で予防教育をすることが必要です。

DVとは、相手(親密な関係になった相手)に対する力と支配を手にするため、またそれを維持するために、意識的に繰り返し使われる虐待であり暴力行為です。デートDVでは、次のようにさまざまなことがおこります、

- 1.感情的な虐待:ばかにしたり辱めたりして自分がおかしいとか自分のせいだと思わせる。相手の気持ちをもてあそぶ
- 2.社会的な男の特権を使う:重要なことは自分ひとりで勝手に決めたり、自分は殿様で女性は家来であるかのようにふるまったり、女性を子ども扱いしたりする
- 3.こわがらせる:物を壊したり、武器を見せたりする、あるいはジェスチャーや見かけ、にらむなどの行動でこわがらせる
- 4.否定、責任転嫁:暴力を軽くみるとか、なかったような言い方をする、相手のせいだ暴力をふるってしまったと言って責任転嫁をする

### 5 防止教育の重要性

リスクと健康への影響と予防対策

- ・デートDVに関係する男性のリスクとして、反社会的行動、仲間と暴力的関係にある少年、身体的暴力を伴う脅しを経験している少年、飲酒など。
- ・一方の女子は暴力や薬物使用により健康が害されながらもデート相手を得たいという願望の方が優先される傾向があるとの調査報告がある。
- ・薬物の使用、飲酒、妊娠、性感染症、早期の性交渉、自殺、絶望感、不健康なダイエットにより健康が侵されていく。デートDVの犠牲者であったかどうかは子どもころのなんらかの暴力の被害者であったかよりも重要な指標である。

アメリカにおける予防対策

地域活動と学校活動との連携

- ・学校活動
  - トレーニングを受けた教師による対話方式による講義
  - 学生によるロール・プレイ

デート防止対策のポスターなどの啓蒙活動

・地域活動

デートDVに関わる若者への支援サービス

電話相談、サポートグループ 4 両親のための資料

支援サービスに携わる人々へのトレーニング

電話相談部門、救急部門、健康部門、警察部門、精神保健部門、プログラムの開発  
大学生を対象とした性的被害を予防するためのプログラム

デートDVに関連して、性的攻撃に対する対策の知識を深め、レイプなどの被害を減少

これまでの記載のように、デート DV の被害者は、気付いていなかったり、気付いても相談できないでいます。 周囲の気付き、対応がとても大切です。

## デート DV に気付いたり、相談を受けた時は

### 1 気持ちを尊重する

「すべき」と方向性を示すのではなく、自分で自己決定できるように力になりたい、という気持ちで向き合ってください。まずは、じっくり話を聞いてください。



### 2 こんな一言はNGです！！

「好きで一緒になったのだから」

「相手も反省している」

「なぜ早く別れなかったの」

「あなたのほうが悪かった」

「男（女）とはそういうもの」

「優しく見えるけど・・・ほんと？」

「あなたは、まだまし」

「あなたの場合は最悪」

デートDVは男性 女性への暴力だけではなく、実際の暴力を含め精神的な束縛、心を傷つける言動は女性 男性にも起こります。



デートDVは社会全体で解決しなければならない問題です。

デートDV早期解決には、身近な人の支援が大切です。

配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）にはデートDVについての規定がありません。DV（Domestic Violence）というより Gender (based) Violence / Harassment といった考えを普及するべきかも知れません。

（松倉、大見）